

マイクロ・ナノテクノロジー研究センター

【2024年度大学評価総評】

学内プロジェクトとして2022年度から「ポストコロナの持続可能な社会実現に資する3D先端材料プロセス」を開始し、2年目となる2023年度について、論文発表などの研究業績が高い水準で維持されていることは高く評価できる。

研究成果の公開について、兼任研究員の研究成果など詳細な内容が掲載された年報を発行し、ホームページにアップロードされており、また、公開型セミナーである「グリーン・サステナビリティセミナー」を開催し、科学技術と社会との関わりを意識した市民プログラムを工夫し継続して行っている点も評価したい。本セミナーをハイブリッド開催にしたことで、学内および学外者から参加者が増えたことも評価できる。

今後の外部資金計画に関して、基本的にはこれまでどおり個々で獲得することを維持していくとしているが、今年度プロジェクト3年目であり、今後さらなる研究基盤の構築と研究業績を高めるためにも、産業界との連携など組織的な検討を図ることを期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究所（センター）の理念・目的を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究所（センター）の理念・目的を規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
・法政大学ホームページ (URL : https://www.hosei.ac.jp/nano/gaiyo/mokuteki/)	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究所（センター）において、研究所長（センター長）及び運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究所（センター）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
・法政大学サステナビリティ実践知研究機構規程 ・マイクロ・ナノテクノロジー研究センター運営委員会資料	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

部局による自己点検・評価は実施しない

基準5 学生の受け入れ

部局による自己点検・評価は実施しない

基準6 教員・教員組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準7 学生支援

部局による自己点検・評価は実施しない

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・ナノテクノロジー研究センター運営委員会資料 ・法政大学研究倫理委員会規程 	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学術データベースの社会貢献活動欄 ・シンポジウム、フォーラム、セミナーの開催案内 ・研究員の研究成果報告、研究計画書 ・グリーン・サステナビリティセミナー実施報告書 ・マイクロ・ナノテクノロジー研究センター年報 	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>新たな学内プロジェクトである「ポストコロナのサステナブルな社会実現に資する3D先端材料プロセス」を立ちあげる、法政科学技術フォーラムにおける産学連携事業における講演・展示を行う、公開セミナー「グリーン・サステナビリティセミナー」を開催するなど、現状の取り組みは適切に把握、実施されている。</p> <p>また2022年度大学評価結果総評で指摘のあった「ポストコロナのサステナブルな社会実現に資する3D先端材料プロセス」実現・社会発信へむけた外部資金計画について、「研究所として応募するプロ</p>
--

グラムに関しては適合するものがなく、獲得することは難しい。基本的にはこれまでどおり個々で獲得することを維持していくことが必要である」と課題認識されている。

研究成果などに定量的な情報があることは評価できる。たとえば「科学技術と社会との関わりを意識した平易な言葉による市民プログラムを継続して取り入れた」などについて、施策とその効果を定量的に客観的に評価できるようにする取り組みにも期待したい。

【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学内プロジェクトとして 2022 年度から「ポストコロナの持続可能な社会実現に資する 3D 先端材料プロセス」を開始し、2023 年度については過年度同様に論文発表や 2024 法政科学技術フォーラムにおけるポスターセッションで研究内容を発表した。論文発表は過去 5 年間の高い水準を維持し、学術雑誌に発表した論文が多数引用された。外部資金の獲得件数も多く、研究の発展に寄与している。

2023 年度の年報を発行し、ホームページにアップロードしている。公開型セミナーである「グリーン・サステナビリティセミナー」を 3 件開催した。科学技術と社会との関わりを意識した平易な言葉による市民プログラムを継続して取り入れており、施策やその効果について定量的に評価できるような取り組みを検討していく。コロナ感染状況の低減に対応してセミナーをハイブリッド開催（対面開催とオンライン開催の併用）としたので、学内および学外者から多くの参加があり、講演内容の理解が増進した。

今後の外部資金計画に関して、私大への補助金が少ない現況では、基本的にはこれまでどおり個々で獲得することを維持していくことが必要である。

2 各基準の改善・向上

基準 6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究所（センター）内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	研究活動
中期目標	①法政大学サステナビリティ実践知研究機構規程第 2 条「競争的資金を原資として活動を行う研究センター」として、研究活動を遂行しつつ、外部資金の獲得をめざす。当研究センター設置以来 19 年遂行してきたマイクロ・ナノテクノロジー研究を続けながら、学部生・院生の教育、研究の場として活用する。

年度目標	2022年度から開始した学内プログラム「ポストコロナのサステイナブルな社会実現に資する3D先端材料プロセス」研究を進展させ、共通テーマの基礎構築を行い、次期中期計画に臨むためのシーズを蓄えるとともに、社会ニーズを意識した発展を図り、ポストコロナを見据えた研究活動を進める。	
達成指標	「3Dマテリアル&先端プロセス研究」にかかわる研究発表件数。センター構成員の科研費等外部資金への応募件数。	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	新型コロナの影響で成果発信に関して発表件数が減少したが、コロナ前の発表件数への回復途上にある。メディアから注目される成果を含む内容もあり、研究の質は保たれた。外部資金として、科研費18件(新規10件、継続8件)、受託研究費8件(JESCO等)、共同研究5件、寄付研究9件を獲得した。科研費申請17件、大型の申請(環境研究総合推進費等)を含む外部資金申請を行った。
	改善策	学内滞在制限など研究活動に関する制限がほとんどなくなり、新型コロナの影響を受けた研究活動はコロナ前のレベルに戻り、外部資金の獲得件数は増加しているため、発表件数の増加が期待できる。
評価基準	研究活動	
中期目標	②研究センターで得られた研究成果を広く一般の人たちに公開する。	
年度目標	新しい研究プログラムの開始を周知するためにホームページを更新する。また、年報の定期的刊行、公開型セミナーを積極的に開催する。	
達成指標	ホームページの定期的な更新。前年度の研究成果年報を刊行し、ホームページ上にもアップロードすること。また、公開型セミナーの開催件数。	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2022年度の年報を発行し、ホームページにアップロードした。公開型セミナーである「グリーン・サステイナビリティセミナー」を3件開催した。科学技術と社会との関わりを意識したプログラムを取り入れた。セミナーをハイブリッド開催(対面開催とオンライン開催の併用)としたので、学内および学外者から多くの参加があり、講演内容の理解が増進した。
	改善策	—
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	研究センターのホームページの充実と更新、産学連携活動への参加、民間企業からの委託研究の受け入れ、一般を対象としたセミナー・シンポジウム・見学会を開催する。	
年度目標	①ホームページの内容充実と継続的な更新をすすめる。一般にもわかりやすい内容を取り入れて、広く興味を引く内容とする。	
達成指標	ホームページに最新の研究プログラムに関する記述、成果が記述されていること。セミナーの案内が掲載されていること。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①2022年度の年報のアップロード、公開型セミナーの開催案内の掲載等など、ホームページの継続的な更新をすすめた。
	改善策	—
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	研究センターのホームページの充実と更新、産学連携活動への参加、民間企業からの委託研究の受け入れ、一般を対象としたセミナー・シンポジウム・見学会を開催する。	
年度目標	②産学連携活動に積極的に参加する。	
達成指標	産学連携活動の推進と参加状況。	

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	②法政大学理系学部・研究所が主催する「法政科学技術フォーラム 2024」に参画した。研究センターのポスター展示とともに、兼担研究員の指導する大学院生のポスター発表 32 件を行った。その他、エコプロ 2023、TECHNO-FRONTIER2023 など外部の産学連携事業における講演・展示 7 件。
	改善策	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		研究センターのホームページの充実と更新、産学連携活動への参加、民間企業からの委託研究の受け入れ、一般を対象としたセミナー・シンポジウム・見学会を開催する。
年度目標		③公開型セミナーの企画、開催を行う。
達成指標		公開型セミナーの企画・開催記録。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	③第 4 回～6 回の「グリーン・サステイナブルセミナー」を開催して、研究成果の発信に努めた。
	改善策	—
【重点目標】		
2022 年度から開始した学内プログラム「ポストコロナのサステイナブルな社会実現に資する 3D 先端材料プロセス」研究を発展させ、共通テーマの基礎構築を行い、次期中期計画に臨むためのシーズを蓄えるとともに、社会ニーズを意識した発展を図り、ポストコロナを見据えた研究活動を進める。		
【目標を達成するための施策等】		
新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが変化し、制約が小さくなったことを踏まえ、コロナ前の研究状況に戻ってより活発な研究を進める。産学連携活動を積極的に進めるとともに、外部資金の獲得に関して、構成員による個々の獲得を増進していく。		
【年度目標達成状況総括】		
コロナ禍の影響により、発表件数が減少した。一方、外部資金の獲得件数は増加傾向が認められる。学内滞在制限など研究活動に関する制限がほとんどなくなり、新型コロナウイルスの影響を受けた研究活動はコロナ前のレベルに戻った。発表件数の増加とともに、クオリティが高く影響力のある成果発信が期待される状況にある。		

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	①法政大学サステイナビリティ実践知研究機構規程第 2 条「競争的資金を原資として活動を行う研究センター」として、研究活動を遂行しつつ、外部資金の獲得をめざす。当研究センター設置以来 19 年遂行してきたマイクロ・ナノテクノロジー研究を続けながら、学部生・院生の教育、研究の場として活用する。
年度目標	2022 年度から開始した学内プログラム「ポストコロナのサステイナブルな社会実現に資する 3D 先端材料プロセス」研究をさらに発展させ、研究シーズと社会ニーズのマッチングを意識した研究センターの次期中期計画の策定を目指す。
達成指標	「3Dマテリアル&先端プロセス研究」にかかわる研究発表件数。センター構成員の科研費等外部資金への応募件数。
評価基準	研究活動
中期目標	②研究センターで得られた研究成果を広く一般の人たちに公開する。
年度目標	ホームページの適宜更新とともに、SNS の活用も検討する。また、年報の定期的刊行、公開型セミナーを積極的に開催する。
達成指標	ホームページの定期的な更新。前年度の研究成果年報を刊行し、ホームページ上にもアップロードすること。また、公開型セミナーの開催件数。

評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	研究センターのホームページの充実と更新，産学連携活動への参加、民間企業からの委託研究の受け入れ、一般を対象としたセミナー・シンポジウム・見学会を開催する。
年度目標	①ホームページの内容充実と継続的な更新をすすめる。SNSを活用して、特に外部の人々への研究活動のアピールをする。
達成指標	ホームページのアップデート回数、セミナーの案内が適宜掲載されていること。WEB、SNSへのアクセス解析。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	研究センターのホームページの充実と更新，産学連携活動への参加、民間企業からの委託研究の受け入れ、一般を対象としたセミナー・シンポジウム・見学会を開催する。
年度目標	②産学連携活動に積極的に参加する。
達成指標	産学連携活動の推進と参加状況。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	研究センターのホームページの充実と更新，産学連携活動への参加、民間企業からの委託研究の受け入れ、一般を対象としたセミナー・シンポジウム・見学会を開催する。
年度目標	③公開型セミナーの企画、開催を行う。
達成指標	公開型セミナーの企画・開催記録。
<p>【重点目標】 2022年度から開始した学内プログラム「ポストコロナの持続可能な社会実現に資する 3D 先端材料プロセス」研究をさらに発展させ、研究シーズと社会ニーズのマッチングを意識した研究センターの次期中期計画の策定を模索する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 コロナ前の研究環境に戻りつつもポストコロナの新しい時代を考えた活発な研究を進める。構成員個々の努力による産学連携活動の積極的推進、外部資金の獲得を推進するとともに、研究センターの枠組みを活かした新しい運営方針を検討する。</p>	